

売るより買うほうが難しい(9)

## つくり手と買い手の「これってすごい」の食い違い

有限会社 良品工房  
代表 白田 典子

私たちは毎日、どんな気持ちで買い物をしているのだろうか？

あらためて考えてみると、いろんなことをわかってないまま、買い物をしていることに気づかされる。

そして、つくり手が「これってすごい」とか「自慢したい」と思っていることと、買い手の「これってすごい」がズレているケースに遭遇することが結構ある。

たとえば先日行った商品選定の井戸端会議にエントリーされたうどん。新品種の小麦を使い、開発に時間をかけたという地元一押しの商品だったが、この商品、パッケージが目立つところに「多加水」という文字がばばーんと書いてある。

「『多加水』って何？水がいっぱい入っているってこと？分からないよね。添加物でも入ってるのかと思っちゃう。」

「自慢そうに書いてある感じだから何かがいいんだろうけど、意味が分からないよね。」

気になってあとで調べてみたのだが、「多加水とは茹でる前の生の状態で、麺の水分含有量が多い麺のこと。一般的に40%以上が多加水麺といわれている」とのこと。

ある会社のホームページには、「少加水のうどんは、小麦粉の状態から30分もあればうどんになるが、多加水のうどんは、小麦粉の粉子の一粒一粒に水が浸透するのを待ち、生地を鍛えては休めるためうどんになるまで1日かかる。そうすることでしっかりしたコシと、モチモチした粘りが出るので」と説明されていた。

そこまで説明してもらえば納得できるが、単に「多加水」と書かれただけでは、その商

品のよさが伝わらないどころか、逆に「ヘンなものでも入ってるんじゃないの？」と誤解してしまうことだってある。

以前にもパッケージに「全糖」という文字が入ったお漬物のことを紹介した。「全糖」とは白ザラ100%の砂糖だけを使用しているということで、漬物業界では高級品として通る一般的な言葉なのだが、モニターさんたちからは、「砂糖をたくさん使ってるっていう意味ですか？」、「すごく甘いんじゃないかと思っちゃいました」などといった声が多く寄せられた。

いわゆる業界用語で、同じ商品をつくっている人たちや商品知識のあるバイヤーさんには「すごい！」と思われたとしても、私たち買い手は、意味の分からない言葉が使われている商品には、怖くて手が出せない。買い手は想像以上に「分からない」言葉に敏感だ。

同じくその井戸端会議にエントリーされた醤油のパッケージには、「地元産の大豆にこだわりました」と書いてあった。それを読んだモニターさんの意見はこのようなものだ。「地元産の素材を使っている『100%』ってきっちり書いてないと、どれくらい使ってるか分からなくて逆に逃げてる感じがする。」

「産のどういう特徴のある大豆だから、ほかとどこが違うっていうのがないと・・・。ただ地元の素材を使っているという商品はたくさんあるものね。」

「が何県にあって、どういう場所かも分からないから、素敵なイメージも浮かばない。」

地元産の大豆を使っていると書いたらその割合が何パーセントかまで知りたいし、特にメジャーな町の名前でなければ、「どんな場所か」、「だからそこで作られる大豆にどんな特徴があるのか」まで語ってくれないと、その商品にどんないいところがあるのかが、分からない。

よかれと思って「地元産の材料にこだわっている」と書いたけれども、それは買い手にとっては特徴でも何でもなし。書き方があいまいなことで、一番最初の意見のように、かえって買い手に不信感を与えてしまうことだっているのだ。

断っておくが、買い手は何もあらさがしをしようとしているわけではない。

私たちはできれば楽しい気分で買い物をしたいし、いつも「うちのお気に入り」の商品をなんとかして見つけたいと思っている。

でも、買い手が「これってすごい」と思うポイントや、「知りたい」と思っていることとズレている商品が多すぎると、お店にあるたくさんの商品の中からお気に入りを見つけて出すことなんて、とてもできないと思う。

## 法人協会ニュース

### 海外商談会参加者募集について

以前から、ご案内させていただいておりますが、当協会では、香港・台湾・シンガポールにて商談会を行います。開催日が迫ってまいりましたので、まだお申込をいただけない方で、参加をご検討中の方は当協会事務局（担当：濱野・高須 TEL:03-5156-0365）までご連絡ください。

たくさんのご参加をお待ちしております。

### 「遺伝子組換え農作物に関する第2回コミュニケーション」の開催について

農林水産省では、「GMOとどう向き合う」をメインテーマとして、遺伝子組換え農作物に関する情報提供を行なうとともに、明治大学北野大教授をコーディネーターにお迎えし、生産者・消費者・研究者・有識者で構成されるパネリストとのパネルディスカッションを行なうこととしています。

参加をご希望される方は、当協会高須までご連絡いただくか、下記のHPからお申込を行ってください。

日時：平成20年1月29日 13:30~ 16:00  
場所：東京都・大手町サンケイプラザ  
定員：400名  
参加費：無料

詳細・申込方法：下記のHPをご覧ください  
<http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/2007/071219.htm>

### 取引先信用調査を活用下さい！

1月24日、読売新聞の九州地方版にて、農業者を標的にした取り込み詐欺についての生地の掲載されました。この記事には当協会も一定の協力をさせていただきました。

意欲ある農業者を狙っての詐欺行為は、断固なくしていかなければなりません。そのためには、お取引前に相手のことを知っておく必要があります。

当協会は大手信用調査会社と契約しております。会員の皆様は、無料で信用調査情報をご利用いただけます（調査会社に情報が無い場合は、有償となりますが調査可能です）。

お取引先相手の情報をFAXでお寄せ頂ければ、すぐにお調べいたしますので、お気軽にご連絡下さい。

事務局 FAX: 03-5156-0366

（担当：栗毛野・新井）

### 「第1回花き生販連携促進交流大会2008東京」の参加者を募集

花きの生産サイド（生産者、出荷者）と小売等サイドが一般消費者向け販売のための連携を促進するため、個々の参加者間の意見交換を行う、農林水産省が主体となった交流会です。

日時：平成20年2月12日 10:30~ 17:00

場所：農林水産省 講堂 ほか

開催内容：

- ・ 討論会「生販連携の強化のために」
- ・ 出展者等によるプレゼンテーション

参加料：無料

お問い合わせ先

（財）日本花普及センター TEL: 03-3664-8739

### アグリビジネス経営塾 第351号

本紙に関するお問合せは下記までお願いします。

社団法人日本農業法人協会

（HP <http://www.hojn.or.jp/>）

TEL: 03- 5156- 0365/ FAX: 03- 5156- 0366

MAIL: [juku@hojn.or.jp](mailto:juku@hojn.or.jp)

© (社)日本農業法人協会 2007

本紙掲載記事の無断転載を禁じます。